

学 校 評 価 報 告 書 (1)

平成21年度 江津市立桜江中学校

評価項目	領域	今年度重点目標	指 標		評価基準		自己評価		学校関係者評価		改善方策案	
			取 組	成 果	A=良い、B=やや良い、C=やや悪い、D=悪い	達成状況	評価	考 察	評価			
確かな学力の育成	学習向上を慣例の定着に努め、学習意欲	計画的な課題や学習指導の工夫で、生徒の学習意欲の向上に取り組む	A	計画的な課題や学習指導の工夫で、学習意欲の向上が見られた	生徒の学習意欲の向上をねらい、そのもととなる基礎基本の定着を図るため、各教科において計画的に課題を出すよう心がけた。また、生徒自身が自分の学習状況を把握し、それに応じて自主学習に取り組もうとするよう働きかけた。TT指導や個別支援等の学習支援の充実により少しずつ成果が感じられる。	B	日々の授業を家庭での学習に濃密にリンクさせ、家庭学習をせざるを得ないように計画的に課題を出される取り組みは、優れて卓越せる指導法と考える。その実践に継続して努められ徐々に成果が現れていることを高く評価する。	B	学習意欲の向上を図るためには、生徒自身が自分の課題に気づき、その解決に計画的に取り組む必要がある。そのため、家庭学習と授業の関連づけを教師がさらに工夫していく。あわせて、授業において個々の理解状況を振り返らせる「場」と生徒自身のがんばった成果がわかる「場」の確保を全職員で共通理解の上、取り組む。			
			B	計画的な課題や学習指導の工夫で、学習意欲の向上に取り組んだ								
			C	課題や学習指導を工夫することはできたが、計画的な取り組みが不十分だった								
			D	課題や学習指導の工夫が不十分であった								
		家庭学習時間が2時間以上を目指す	A	生徒の家庭での平均学習時間が2時間以上	家庭学習につながるような教科指導の工夫及び教科からの課題により、定期的実施している家庭学習時間調査では、順調に学習時間が伸び、個人差はあるものの全校の平均時間は2時間以上を達成することができた。今後も働きかけを継続し、さらには家庭学習の内容の充実を図りたい。	B	全校生徒の家庭学習が10月調査では3時間を突破し、11月には更に上積みされた。まさに驚嘆すべき生徒たちの努力であり、根気強く働き掛けられた先生方の指導力を讃え、最高に評価する。	A				
			B	生徒の家庭での平均学習時間が1時間30分～2時間未満								
			C	生徒の家庭での平均学習時間が1時間～1時間30分未満								
			D	生徒の家庭での平均学習時間が30分～1時間未満								
	活動全体の評価			定期的な家庭学習時間調査を行い、それを全校に公表し指導することにより、家庭学習時間2時間以上という目標はほぼ達成でき、家庭学習習慣は身につけてきた。しかし、学習意欲の向上に関しては個人差がある等不十分な面があるように感じた。TT指導、個別指導については、学力向上支援員に入っていた方がいいが、個別指導を必要とする生徒へのサポート体制を確立する必要がある。								
	教育課程・学習指導	特別活動の推進	生徒会の会話を活動に積極的に取り組む	A	各専門部の活動を計画的に行うとともに、改善策を立案・実施し、主体的な取り組みが見られた	専門部の係活動など、生徒各自が役割意識を持って取り組んでいる。各専門部とも計画的に活動できおり、日常の当番活動において指導を要する場面も減り、改善してこう考える生徒が多かった。	B	指導を要する場面も減り、改善してこう考える生徒が多かった」ということは、先生方の弛まざる指導の賜と捉える。体育祭、文化祭等生徒会主導の行事における生徒たちの活動の姿は、その充実度の何よりの証佐である。	B	生徒の相互批判能力を高めるためにも本部や各専門部で定期的な話し合いをもち、課題点を確認し、改善にむけての継続した話し合いを実施する。また、強いリーダーシップを持って取り組むことのできる生徒の育成も必要と考える。そのために、リーダー研修の機会を設けたり、学校行事や生徒会の諸活動において、生徒が主体的に活動することで、自信と経験を多く積ませたい。		
B				各専門部の活動を計画的に実施し、主体的な取り組みや活動の改善に取り組んだ								
C				各専門部の活動を計画的に実施した								
D				各専門部の計画的な活動が不十分であった								
生徒会活動に主体的に取り組む			A	生徒会活動に主体的に取り組む、改善に努めたと評価した生徒が80%以上	全体的に生徒会の諸活動に対して熱心に取り組めた。1学期末の個別生徒アンケートで87%の生徒が、2学期末の個別生徒アンケートで98%の生徒が反省を次に生かしたとしている。2学期は、人権・同和教育と連携を取り、行事や活動の中で学年に応じた目標設定を行い、それに向けて熱心に取り組むとともに評価、改善を図った。	A	生徒会の諸活動に進んで取り組み、更にその改善にまで努めた生徒が96%に達したことは、健全なる生徒会活動が存分に展開されていることを物語っている。「強いリーダーシップを持つ生徒の育成」には、リーダー養成を目指した研修の機会を与えることも一つの方途と考える。	A				
			B	生徒会活動に主体的に取り組む、改善に努めたと評価した生徒が70%～80%未満								
			C	生徒会活動に主体的に取り組む、改善に努めたと評価した生徒が60%～70%未満								
			D	生徒会活動に主体的に取り組む、改善に努めたと評価した生徒が60%未満								
活動全体の評価			専門部の常時活動は自覚を持って取り組むことができた。日常生活において、掃除の取りかかりが遅かったり、トイレのスリッパがそろっていないことへの対応として、放送などで呼びかけを行っているが、まだ改善する必要があるため新たな取り組みも検討したい。									
ふるさと教育の推進		ふるさとと教育の推進	ふるさと学習について、各自課題を持って学習に取り組む	A	ふるさと学習で自ら課題を設定し、地域で自分ができることを見つけ考察した	市の出前講座等を有効に活用し、生徒個々がふるさとに関心を持ち、自らの課題を設定しながら、計画的に学習を進めることができた。自分たちに出来ることを考え、地域の公民館等の協力を得ながら、ふるさとへの情報発信につなげることができた。また、ふるさとの文化にふれることにより、その素晴らしさを感じながら活動することができた。	A	市の出前講座を活用されて、ふるさとの有形無形の資源を教材化され、生徒一人一人が課題を設定し計画的に、且つ系統的に学習を進められたことを讃える。また「新春走り初め会」への先生方をはじめ、大多数の生徒たちの参加は、地域社会とともに生きる生徒を育成することの実践であり高く評価したい。	A	公民館等地域の方との連携をさらに深めることにより、情報を共有し合い、地域行事等への関心が高まるような働きかけを工夫する。また、課題の設定の仕方、まとめ方など、生徒が相互に高めあえるような学習場面を工夫する。		
	B			ふるさと学習で自ら課題を設定し、計画的に学習に取り組むことができた								
	C			ふるさと学習に取り組んだが、課題設定が不十分であった。								
	D			ふるさと学習への取り組みが不十分であった								
	ふるさと学習について、工夫を入れたまとめや発表を行う		A	ふるさと学習で自分ができることを盛り込んだまとめや発表を行った。	自分が設定した課題について考え、個人新聞やレポート、ポスター、冊子等表現方法を工夫して取り組むことができた。発表については、文化祭が延期となったため校内展示となったため地域の方に見ていただくことができなかった。	B	学習の成果については、文化祭のみならず公民館やJR川戸駅等を利用して情報発信にまで高められたことは「自分ができること」の実践であり、高く評価できる。これらの活動が将来にわたって、郷土桜江を愛する心の育成に繋がっていくものと考えている。	B				
			B	ふるさと学習で気づいたことを適切に伝えることができるまとめや発表を行った								
			C	ふるさと学習でまとめや発表を行った								
			D	ふるさと学習でまとめや発表の内容が乏しかった								
	活動全体の評価			どの学年も「ふるさと」に対する様々な学習を計画的に、そして、系統的に行うことができた。生徒一人一人が自分の課題を設定し、その解決に向け、色々な方の協力を得ながら活動することや、活動を通じてふるさとの「人」「もの」「こと」に触れ、人との関わりの大切さなど多くのことを学ぶことができた。学年の段階に応じたまとめ方を考え、地域に発信活動が行えたことも大きな自信となったように思う。								

学 校 評 価 報 告 書 (2)

平成21年度 江津市立桜江中学校

評価項目	領域	今年度重点目標	指 標		評 価 基 準		自己評価		学校関係者評価		改善方 案	
			取 組	成 果	A=良い、B=やや良い、C=やや悪い、D=悪い	達成状況	評価	考 察	評価			
教育課程・学習指導	人権・同和教育の推進	互いを認め合い、助け合える生徒を育成する	一年を通して計画的に人権・同和教育を推進する	A	計画的に授業、メッセージ書き、人権集会、職員研修などを実施し、人権感覚が向上した	A=良い、B=やや良い、C=やや悪い、D=悪い	計画に従い、1学期は人権メッセージ書きを行い、校舎内の各場所に掲示した。2学期には研修職員会、研究授業、人権講演会、人権集会を行った。また、人権集会に合わせ関連した学活授業や生徒会を主体とした毎月の目標決め、振り返り活動なども行い自己肯定感が高まるように努めた。	B	人権・同和教育については、その取り組み方法、成果の検証等、短期間での取り組みでは結果が表れない課題だと思ふ。繰り返し、定期的な研修等が必要である。	B	2学期に取り組みが集中してしまうので、1年を通した取り組みになるように、年度当初にスケジュール化する。職員研修の機会をもっと増やしたり、生徒の実態に合う人権集会、講演会の内容を検討する。また、日々の指導の中で、人権・同和教育の観点を意識し指導していく。	
				B	計画的に授業、メッセージ書き、人権集会、職員研修などを実施した							
				C	計画的に授業、メッセージ書き、人権集会、職員研修が実施できなかった							
				D	授業、メッセージ書き、人権集会、職員研修の一部しか実施できなかった							
		お互いを思いやる気持ちが高まるなど、生徒の人権意識が向上する		A	人権アンケート(生徒)で、人権意識や相手を尊重する態度の向上が顕著に見られる	A	生徒アンケートによると1学期末と2学期末で、「思いやり」の項目で91%が98%に、「目標を持って前向きに生活」の項目でも86%が91%に肯定的評価が向上している。生徒会主体で行った行事ごとの目標決め・振り返りの活動や人権集会での取り組みの効果が表れたと思われる。	A	アンケートにより意識の向上が図れる。また、家庭や地域活動に参加することにより意識の向上が期待できると思われる。	A	肯定的な意見が多く、活動の成果は見られた。意識の向上が態度に表れるように日々の指導を継続的に行うとともに、人権集会など生徒会の主体的な活動や家庭、地域活動への参加を通して、生徒の自尊感情の高揚や、人権感覚を高めていく。	
				B	人権アンケート(生徒)で、人権意識の向上が少しづつ見られる							
				C	人権アンケート(生徒)で人権意識の向上が見られない							
				D	人権アンケート(生徒)で人権意識が低下した							
		活動全体の評価							katei			
		進路指導	進路指導の推進	生き方学習について、計画的に実施し、まとめやレポートを作成する		A	生き方学習を実施し、まとめを行うことで生徒は自分の生き方について深く考えることができた	B	3年生は、職場体験、高校への体験入学を基に自分を振り返り、将来の進路選択に向けて自分なりの考えを持つことができた。2年生は、「私の仕事館」で自分で選んだ活動を行い、自らの興味・関心を深め、自己発見をすることができ、自分の課題を見つけることができた。1年生は、3学期に職場訪問を計画しており、事前学習として仕事の分類や仕事の意義について学習する予定である。	B	この時期の職場体験はとても良いことで今後も継続して実施してほしい。保護者の仕事についても関心を持たせると同時に理解を深めるよう支援をお願いしたい。	B
B	生き方学習を実施し、まとめやレポートが作成できた											
C	生き方学習を計画的に実施した											
D	生き方学習を計画的に実施できなかった											
生き方学習について、工夫してまとめ、発表をする				A	生き方学習のまとめや発表に自分なりの工夫を施し、自分の生き方について深く考えることができた	B	2年生は「私の仕事館」での体験前に自分の性格や興味・関心をもっている職業、仕事館でやってみたい事などをまとめて、より主体的な活動ができるように工夫した。体験後は、新たな発見とともに今後の生活へ生かしたい点をまとめて発表した。3年生は、職場での体験を基に自分の特性を見つめ、今後の生活に生かすよう、レポート制作を通して考えることができた。	B	レポートを書き、発表したことは、とても良いことだと思う。自己・他人の性格や将来について理解が深まると思う。	B	各体験においても、レポートを書くことで、自己を振り返り、他者のレポート内容を知ることによって、互いに刺激を受けながら、進路について考えを深めている。今後は、レポートの内容をさらに充実させることと、発表の方法を工夫していき、日頃の取り組みをふまえて表現力を鍛える必要がある。	
				B	生き方学習のまとめや発表に自分なりの工夫を施した							
				C	生き方学習のまとめや発表を行った							
				D	生き方学習のまとめや発表が不十分であった							
活動全体の評価							学年が進むにつれて、職業に関する視野を広げている。3年間を見直し、色々な体験を通して自分を振り返る中で、自分自身を向上させ、自己実現を図るような体系的な流れは確立できている。今後は各学年での活動のめあてをはっきりと意識させ、必要に応じて地域との連携も深めながらすすめていくと、より効果的であると考える。					
生徒指導	生徒指導の推進			生徒の情報交換を計画的に行い、共通理解のもと生徒の指導に当たる		A	生徒の情報交換を計画的に行い、共通理解による指導で、生徒が落ちついて生活できた	A	職員会議での定期的な情報交換と、職員朝礼での随時の情報交換により、概ね情報の共有が図れた。2学期からは毎週定期的に担任者会を開催して、より一層の情報交換と共通理解のもとでの指導が図れるようにした。教員アンケートでは、学年によって若干課題はあるものの、全体的に落ち着いて生活できているという評価であった。今後も一層の支援と指導を継続していく。	A	今後も情報交換を密にして、共通理解の基生徒指導にあたってほしい。	A
		B	生徒の情報交換を計画的に行い、共通理解による指導ができた									
		C	生徒の情報交換を計画的に行い、指導に当たった									
		D	生徒の情報交換や指導が不十分であった									
		基本的な生活習慣が守られ、規範意識が向上する		A	基本的な生活習慣・規範意識調査で肯定的な評価が80%以上	A	生徒アンケートによると、生活習慣調査は1・2学期とも89%、規範意識調査では1学期99%、2学期98%の生徒が肯定的評価をしている。実態として、規範意識が高く、ルールを守ろうという意識が高い。今後も職員の共通理解の下、指導を継続していく。	A	生活習慣は、家庭での環境、指導が大切だと思う。保護者と一体となった活動が必要と思われる。	A	あいさつについて、生徒会活動や部活動など、多くの場面で運動や指導を行なっているが、学年差や個人差がまだあるので、授業や、返事など人前で声を出す場面での指導を徹底していく。また、学級通信やPTA活動を利用して、保護者への啓発活動も充実させていく。	
				B	基本的な生活習慣・規範意識調査で肯定的な評価が70%以上～80%未満							
				C	基本的な生活習慣・規範意識調査で肯定的な評価が60%以上～70%未満							
				D	基本的な生活習慣・規範意識調査で肯定的な評価が60%未満							
		活動全体の評価							あいさつ運動や声かけ運動、人権集会と関連させた人間関係づくり活動を通して、表現力の育成やコミュニケーション能力の育成をはかることで、いじめや心が不安定になりやすい生徒の未然予防と早期発見に努めた。また、交通安全街頭指導や、交通安全教室、反射タスキの着用運動を通して、通学時の安全面の意識の向上に努めると共に、地域での過ごし方や声かけ事業への指導を行なった。基本的な生活習慣の指導においては、徐々に意識が高まっているので、継続指導を行い、身につけさせていきたいと考えている。			

学 校 評 価 報 告 書 (3)

平成21年度 江津市立桜江中学校

評価項目	領域	今年度重点目標	指 標		評価基準		自己評価		学校関係者評価		改善方策	
			取 組	成 果	A=良い、B=やや良い、C=やや悪い、D=悪い	達成状況	評価	考 察	評価			
校内研究の推進		生徒の表現力・主体性が高まる実践を行う。	朝終礼でのスピーチ活動、学校行事、生徒会活動等を通して生徒の表現力の向上に努める	A	朝終礼でスピーチ活動等を実施し、生徒の表現力が向上した	全学年で朝終礼時にスピーチ活動を実施している。また、校内行事、特に文化祭で発表の場を多く設定する努力をしてきた。生徒は90%以上がスピーチ活動がきちんとできたと評価しているが、表現力の向上までには至っていない。	B	生徒の90%以上がスピーチ活動がきちんと出来たと評価していることは、この活動を理解して取り組んでいると思う。今後は表現力の向上に努めて欲しい。	B	今後もスピーチ活動やその他の発表の場を計画的に設け、生徒の表現力が高まるような手立てを講じた。また、生徒の発表・発言を評価することが表現力の向上に有効だと考え、評価も継続して行う。		
				B	朝終礼でスピーチ活動等を実施するなど、表現力向上に努めた							
				C	一部の場面でスピーチ活動を実施し、表現力向上に努めた。							
				D	スピーチ活動の実施が不十分であった							
		各教科で表現力、主体性が高まる手立てを講じる	A	各教科で表現力、主体性が高まる手立てを行い、成果が見られた	各教科で、表現力、主体性が高まるように調べ学習や、プレゼンテーション、その他の発表の場を設けた。研究主題に基づき、表現力をつけるための方法を7回の校内研究で検討し、全教職員がそれぞれの教科で授業を工夫し、実践していた。その中で、県教研の授業発表の前には、全教職員が表現力や基礎学力をつけるための有効な指導法について研修した。	B	表現力、主体性が高まる学習が出来、評価できる。今後、より評価が高まる学習が望ましい。	B	生徒の表現力・主体性が高まるような実践や研修を継続して行う。また、どの教科においても、「書くこと」による表現活動を取り入れていく。それぞれの取り組みの評価を確実にし、次の実践につないでいく。			
			B	各教科で表現力、主体性が高まる手立てを講じた								
			C	一部の教科で表現力、主体性が高まる手立てを講じた								
			D	手立てを講じることが不十分であった								
		生徒の表現力、主体性が高まる	A	生徒の表現力、主体性が高まり、授業、行事などに積極的に取り組めた	学活での調べ学習の発表、生徒会では朝礼での専門部発表や文化祭での発表の場を設け、自分たちの力で企画・運営することの大切さを意識させ、発表の仕方や技術を身につけるための手立てを講じた。しかし、表現力については不十分な生徒も見られる。	B	自分たちの力で企画・運営することの大切さを意識させた。表現力について今後生徒が自主的に発表できる機会を多く与えていただきたい。	B	各教科では学び合いの場や表現活動を多く取り入れ、学活や生徒会活動では、生徒が自主的に企画・運営できるような場を設定することを継続していく。			
			B	生徒の表現力、主体性が高まった								
			C	生徒の表現力、主体性が一部の生徒で高まった								
			D	生徒の表現力、主体性が高まりが不十分であった								
活動全体の評価												
学校保健の推進		健康に必要な知識と行動選択能力を育成する	喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育や「早寝・早起き・朝ごはん」等の呼びかけを計画的に実施し、自己管理ができるように努める	A	喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育や「早寝・早起き・朝ごはん」等の呼びかけを計画的に実施し、自己管理が進んだ	夏休み前全校生徒を対象に、警察署員を講師に、喫煙・飲酒防止教室を、冬休み前には養護教諭が1・2年生に飲酒の害について、3年は3学期外部講師により薬物乱用防止教室を実施する。学期に1回、月曜日から金曜日の5日間に行う、「早寝・早起き・朝ごはん」の呼びかけを、今年度は生徒会保健部の活動に位置づけた。保護者のコメント記入により保護者の関心も高まった。	A	喫煙、飲酒等の防止教育、エイズ教育、「早寝・早起き、朝ごはん」の呼びかけなど、計画的に実施された。保護者の関心も高まった。	A	薬物乱用防止等を今後も3年間で計画的に学習し、正しい判断力、価値観を身につけさせる。生徒の日常生活の状況を把握し、生徒指導と連携を取りながら指導を行う。早寝等の呼びかけが保健部の活動として定着していくよう生徒に指導する。		
				B	喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育や「早寝・早起き・朝ごはん」等の呼びかけ等を計画的に実施し、自己管理ができるように努めた							
				C	喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育や「早寝・早起き・朝ごはん」等の呼びかけ等を実施した							
				D	喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育や「早寝・早起き・朝ごはん」等の呼びかけが一部しか実施できなかった							
		健康への理解が深まり、健康に配慮した望ましい生活習慣が定着する	A	生活リズムチャレンジシート等の生活習慣に対する肯定的評価が80%以上	5月の第1回の結果では「家庭学習2時間以上」と「食事中テレビを消す」の達成率が50%未満と低かったが、11月の結果で「家庭学習2時間以上」は70%以上達成となる。「食事中のテレビ」「ゲームやテレビの視聴時間」は横ばいのため家庭学習のしわ寄せが就寝・起床時刻の遅れとなり、生活習慣を改善して行きたいという反省は多かったが、実行するのは難しかった。	B	家庭学習2時間以上の達成率が70%を超えていて目標に近づきつつある。ただ、「早寝早起き」と「学習時間」等とのギャップがあり、改善していきたい気持はあっても、生活習慣の改善に至っていないもどかしさがある。	B	家庭学習の時間を確保しながら、帰宅後の時間が有効に過ごせるよう、シート記入前に自己の生活時間設計を立てさせる。また、保健部の生徒が継続的に情報発信する。そして、家庭の協力を得ながら生活習慣の改善を図る。			
			B	生活リズムチャレンジシート等の生活習慣に対する肯定的評価が60%以上								
			C	生活リズムチャレンジシート等の生活習慣に対する肯定的評価が50%以上								
			D	生活リズムチャレンジシート等の生活習慣に対する肯定的評価が50%未満								
		活動全体の評価										
		<p>専門家によるロールプレイングを取り入れた薬物乱用防止等を夏休み前に実施したことは行動選択能力を身につけるのに役立った。2学期はインフルエンザの爆発的な流行があったが、生活リズムの取組などによる規則正しい生活や毎朝家庭で実施する健康観察によって自己管理能力が身につく、感染の二次拡大を最小限にとどめることができた。</p>										
		安全管理		校内安全体制の充実を図る	防災学習を計画的に実施し、安全意識の向上に努める	A	防災学習を計画的に実施し、その評価・まとめにより安全意識の向上が図れた	防災学習は計5回計画的に実施した。1回目は避難経路の確認、2回目は通報・消火訓練、起震車体験、3回目は心肺蘇生法(AED使用)、搬送法、止血・固定法の救命講習、4回目はロールプレによる防犯教室、5回目は火災訓練を行う。2・3・5回目は消防署、4回目は警察署から講師を招いて実施した。昨年の改善策を生かし、外部講師による実習形式及び参画型の防災学習を実施でき、安全意識の向上を図ることが出来た。	A	防災学習は綿密な計画のもとで、それぞれの分野で外部講師による実習形式及び参画型で行われ、アンケート結果からも実習内容もわかりやすかった。また外部講師からも積極的にまじめに取り組んでいたとあり、生徒の防災意識の前向きな姿勢が伺える。また多様な学習内容に加え、実習形式及び参画型と工夫がこらされて高く評価する。	A	今後も、実習形式及び参画型の防災学習を実施するとともに、訓練のための訓練に終わらないように、より実践的な防災学習となるような工夫を施す。そうすることで、安全意識の向上だけでなく、危機回避能力の習得につながると思う。
						B	防災学習を計画的に実施し、その評価・まとめにより安全意識の向上に努めた					
C	防災学習を計画的に実施し、評価した。											
D	防災学習を計画的に実施できなかった											
生徒、教職員の安全意識が高まる	A			生徒・教職員の安全意識調査で肯定的評価が80%以上	生徒、教職員の安全意識調査では、2回目は90%以上、3回目は100%、4回目は90%以上が安全意識を高められたと肯定的評価であった。5回目は教職員だけの評価であったが、訓練内容を当日に急遽変更するなどより実践的な火災訓練を行ったので、大変めになったという評価であった。	A	安全意識調査で生徒、教職員とも90%以上の肯定的評価であり、急速の変更にとも速やかに対応されるなどマンネリ化に陥らずより実践的な、火災訓練が行われた事は安全意識の高まりが伺われる。	A				
	B			生徒・教職員の安全意識調査で肯定的評価が60%以上								
	C			生徒・教職員の安全意識調査で肯定的評価が40%以上								
	D			生徒・教職員の安全意識調査で肯定的評価が40%未満								
活動全体の評価												
<p>今年度は、毎月の安全点検による危険箇所の修理のみならず、学校、地域から要請し、それを受けて体育館や校舎階段、自転車小屋、トイレ等の修理を市教委に行っていたため、校内の安全体制はかなり充実した。交通安全教室等による自転車の乗り方指導や、市による道路補修によって、生徒の登下校の安全確保に努めた。また、安全に必要な知識と行動選択能力の育成については、防災学習、保健での授業、保健だより等で身につけさせ、安全対応能力の向上を図ることは出来た。</p>												

学 校 評 価 報 告 書 (4)

平成21年度 江津市立桜江中学校

評価項目	領域	今年度重点目標	指 標		評価基準		自己評価		学校関係者評価		改善方策	
			取 組	成 果	A=良い、B=やや良い、C=やや悪い、D=悪い	達成状況	評価	考 察	評価			
特別支援教育の推進	特別支援体制を整備する	校内支援教育コーディネーターを中心に校内研修を推進し、教職員の資質の向上を図る	A	校内研修をもとに手だてを考え、特別支援に対する考えが深まった	個別支援を要する生徒について、校内研修を行うことができた。支援方法を全教職員で共通理解し、改善に努めることができた。	B	ご多忙の中、資料づくりをして校内研修を推進し、支援方法を全職員で共通理解するなど積極的に取り組まれている。	B	外部機関との連携を密にしたり、校外研修に積極的に参加したりして、そこから学んだことを職員研修に生かす。			
			B	資料を用意して、校内研修を推進した								
			C	校内研修を実施した								
			D	校内研修の実施が不十分であった								
		教職員間での情報交換をもとにした計画的な指導により、生徒一人一人への個別支援が進んだ	A	教職員間での情報交換による計画的な指導のもと、生徒への個別支援による成果が見られた	教職員間での情報交換を定期的に行うことができた。生徒の個別支援については、特別支援学級の生徒以外にも学習支援が必要な生徒について、可能な限り時間割のなかでTT指導、個別指導を入れ、昼休みや放課後の補充指導に取り組んだ。	B	担任者会などで生徒の情報交換し、個別的支援、学習支援が必要な生徒に寸暇を惜まず個別指導するなど、一人ひとりを大切に指導されており評価できる。	B	特別支援を必要としている生徒について、指導についての共通理解を一層図っていくために、職員会や担任者会などで特別支援教育の視点から生徒についての情報交換を継続して行う。			
			B	教職員間での情報交換を計画的に行い、生徒への個別支援を進めた								
			C	生徒への個別支援を行った								
			D	生徒への個別支援が不十分であった								
	活動全体の評価					担任者会を定期的に関き、個別に支援が必要な生徒についての情報交換を行うことができた。個別の支援方法についてさらに検討していき、さらにより良いものにした。						
	特別支援教育	福祉活動に積極的に参加する生徒を育成する	福祉体験学習を計画的に推進する	A	福祉体験学習を計画的に実施し、生徒が積極的に福祉活動に取り組んだ	福祉体験学習は、1年生が保育所・福祉施設訪問を行った。1年生の施設訪問は全部で2回行い、2回目の訪問前には、1回目を省みて、園児・お年寄りへの接し方の見直しなどができた。ほとんどの生徒が、積極的に交流を行った。しかし、どのように交流すればよいかかわからず、受身がちな対応をする生徒も若干いた。また、全校生徒による一人暮らしのお年寄りへの暑中見舞訪問や各行事の案内、年賀状の送付を実施し、お年寄りの方との交流が図れた。	B	福祉体験学習では、回を重ねることに積極的な交流ができるようになってきている。今後生徒自身の考えで交流がより積極的に行われるようになることを期待したい。	A	自発的な行為が、福祉活動において大切である。大きな活動でなくとも、地域や学校生活の中でのちょっとした気にかかると、自発的に改善できるようにしていく。そのために、生徒会や専門部の活動を生徒自身の考えで充実させるように促す。		
B				福祉体験学習を計画的に実施した								
C				福祉体験学習を実施した								
D				福祉体験学習の実施が不十分であった								
福祉体験学習では、自ら課題を見つけ解決に努める			A	自分なりの課題や考えを持ち、課題を解決することができた	1年生の福祉体験学習では、約8割の生徒が自分なりの課題を持って施設訪問し、それぞれ課題を解決することができた。全校では、暑中見舞い訪問や年賀状書きなどに取り組んだが、課題を持って取り組んでいるとは言いがたい。今後は、1年生の福祉体験学習だけでなく、全学年で課題を見つけ、解決していくための手立てを考える必要がある。9割以上の生徒が「協力しているいろいろな活動を行う」「思いやりの心を持って接する」ことができていると、アンケートに回答しているため、課題設定の場を確保すれば、生徒の成長が大いに期待できる。	C	1年生は、自分なりの課題を持って施設訪問を解決することができている。今後全学年で暑中見舞い訪問等に対し、課題設定ができて解決に向けた活動ができるようになるべしと願う。	C	民生委員の方から説明を受けた後、暑中見舞い訪問の計画を昼休みや放課後の短時間を使って行う。各地区ごとに3年生を中心とした話し合い活動を繰り返すことで、各学年、各個人ごとの課題設定を行いやすくする。また、各地区ごとで解決できない課題については、生徒会や専門部に働きかけるようにする。			
			B	自分なりの課題や考えを持ち、課題の解決に努めた								
			C	自分なりの考えを持ち、課題を見つけることができた								
			D	課題を見つけることが不十分であった								
活動全体の評価					福祉施設訪問、暑中見舞い訪問、年賀状書き、各種行事の案内などを通して、お互いのよさを認め合う意識の育成を行うことができた。しかし、課題を自ら持ち、解決していくという点においては、課題設定の場の確保など不十分な面があった。福祉活動は自発的な行為が大切である。生徒自身が福祉活動を自発的に行うことができるように、生徒会や専門部の活動を充実させ、自分たちの日常生活から福祉について考える心をさらに育てていきたい。							
研修		校内研修の推進	校内研修を計画的に実施し、研修を深める	A	校内研修を計画的に実施し、研修を深めたことで教員の資質向上につながった	校内研修の年間計画に従い、授業研究を実施し研修に努めた。6月には県数研の授業公開に際し、全職員が研修を積んだ。2学期以降、先進地(広島県の塩町中学校)視察を全教員が行い、特に表現力や基礎学力をつけるための方法について研修した。また、校内研修では、指導助言者も招き、授業研究を中心に研究主題に迫る研修を深めることができた。今後は、個々の教員の更なる実践が推進できるようにしていく。	B	校内研修計画に沿って、指導助言者も招いた授業研究や全教員参加の先進地視察を実施されたことを高く評価したい。このことは、個々の教員の資質の向上につながっていると評価している。気を抜くことなく、更なる自己研鑽に努められることを願う。	A	今年度の取り組みの反省と総括をしっかりと行い、生徒が今後身につけるべき力を十分見極めたうえで、更に校内研修を積み、学習のねらいを明確にし、授業での振り返りを行うなど、先進地視察で学んだことを取り入れながら、自己研鑽に勤める。		
	B			校内研修を計画的に実施し、研修を深めた								
	C			校内研修を計画的に実施した								
	D			校内研修の実施が不十分であった								
	活動全体の評価					全教員が1回以上は研究授業を行い、研修を積むことができた。研修を更に進めるため、先進校への視察も全教員が行い、知識の共有を図りながら研修を進めることができた。また、県数研に向けての研修も実施した。						
情報提供	学校の情報公開の推進	校報、HP等で定期的に学校情報の提供を行う	A	定期的に校報、HP等で情報提供し、地域・保護者の学校理解が深まった	学校本部支援事業を活用し、今年度から学校のホームページを地域の方にお願している。リニューアルしたホームページを4月末よりアップしており、校報「いわき」、「校長室の窓」、「保健だより」や学級通信等とともに、ある程度の情報提供は出来たが、学校の理解が深まるまでには至っていないと考える。	B	定期的に校報・HP等による発信やPTA総会・地区懇談会・学校保健委員会等による学校からの情報公開はできているし、予定等の連絡に際しては、早めの対応で助かっているとする意見がある。情報発信のあり方については、必要性を慎重に検討・協議されたい。	B	HPの定期的な更新を進めるとともに、より効果的な情報公開ができるようにタイムリーな更新や、HPIについてのPRを進めていく。			
			B	定期的に校報、HP等で情報提供できた								
			C	校報、HP等で情報提供できた								
			D	校報、HP等での情報提供が不十分であった								
	活動全体の評価					学校の情報公開は、ホームページ、校報等による発信や、PTA総会、地区懇談会、学校保健委員会等による学校からの説明で推進できた。学校評価をホームページでアップしており、学校の取組、評価、改善等についても伝えることが出来た。						